

海外教育報告

オーストラリア・ヴィクトリア州における日本語教育の現状

向山 結花*

Japanese Language Education in Secondary College
in Victoria, Australia

Yuka MUKAIYAMA

【要 約】 オーストラリア・ヴィクトリア州で日本語教育に携わって以来、11年目となる。1996年1月から1997年12月までの2年間はヴィクトリア州教育省に雇われる日本語教師アシスタントとして、公立校4校で勤務、1998年1月から正規教員として日本語をフランクストン・ハイスクールで教え始める。

多民族国家のオーストラリアでは、小学校からいろいろな外国語やその文化を紹介しているが、ここヴィクトリア州における高校レベルの外国語教育では、全部で41言語の外国語を紹介している。最も学習者が多い外国語はフランス語で、その次に中国語、そして日本語という順になっている。日本語に人気がある背景には、世界に進出している日本企業の経済的な強さや健康的といわれる日本食ブーム、ハイテク日本、漫画アニメなどの日本文化の魅力があげられる。

本報告ではオーストラリア・ヴィクトリア州の教育制度及び中等教育における日本語教育について紹介する。

* フランクストン・ハイスクール教諭 (オーストラリア・ヴィクトリア州)

はじめに

オーストラリアという国には6つの州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ヴィクトリア州、ウェスタンオーストラリア州、サウスオーストラリア州、タスマニア州）と1つの準州（ノーザンテリトリー準州）、そして首都特別地域キャンベラが存在する。この報告ではヴィクトリア州の教育、特に中等教育について紹介する。

ヴィクトリア州はオーストラリア大陸の南東部に位置しており、メルボルンが州都、2006年のオーストラリア統計局概算によると、都市圏人口は370万人で、メルボルンはポートフィリップ湾に面する人口100万人を越す都市となっている。このメルボルンからポートフィリップ湾に沿って50kmほど南下したところに、フランクストンという人口11万7千ぐらい（2003年調査）の街がある。この街に私自身住みついて11年目、公立のフランクストン・ハイスクール（中学、高校）で日本語を教えて10年以上になる。

教育制度

ヴィクトリア州における公立教育制度は1872年に遡る。1910年に州立の中等教育制度が始まるが、それまでは私立の中等教育のみであった。

現在、小学校教育は7年間（1年目の準備期間を含め：これは幼稚園年長組の5歳教育にあたる）であり、その後、6年間の中等教育につながる。この中等教育の最後の2年間は、生徒本人が15歳（2007年からは16歳）に達していれば、選択できる教育期間（The Victorian Certificate of Education：略VCE）となっている。この教育が終了した段階で、大学や専門学校などの高等教育機関へ進むためのエンタースコアが取得でき、このスコアによってどの大学に進学できるかが決定される。

ヴィクトリアの学校は州政府からだけでなく私的にも資金調達がなされている。公立学校（州立、市立）はヴィクトリア政府により直接援助され運営されている。私立学校にはローマカソリック教会が運営しているペリッシュスクールやイギリスの公立学校に似ているエリートインディペンデント（独立教会派）の学校がある。インディペンデントの学校はたいていプロテスタントの教会と関係がある。また、何校かの私立ユダヤ教、イスラム教小学校、中学校、高校もある。私立学校もいくらかの公的援助を受け取ることができる。公立、私立すべての学校は州政府が出すカリキュラム・スタンダードにそって、教育を行わなければならない。

2005年8月現在、ヴィクトリア州の公立学校数は1,613校で、カソリックの学校は484校、インディペンデントの学校は208校となっている。また公立学校の生徒数は537,000人を下回り、私立校の生徒数は約289,000人で、ほぼ3分の2にあたる私立学校がカソリックの学校である。小学生は455,000人以上を占め、中学・高校生は371,000人以上である。公立学校のVCEへの進学率は77%、私立学校でのVCE進学率は90%となっている。そして、ヴィクトリア州にはほぼ60,200人の正規教員がいる。

幼児教育(Pre-school)

ヴィクトリア州の幼児教育は義務教育になっていない。幼児が初めて学ぶ公の場は、育児所や親が運営するプレイグループである。また、幼稚園教育と小学校教育とは分離されている。西オーストラリア州のみ、小学校教育の一部として幼稚園教育が含まれている。幼稚園教育はたいいてい地域の役所やコミュニティーグループや私立の組織によって運営されている。この幼児教育は3・4歳を対象としているが、特に小学校入学前の1年間は出席率もよく、子どもにとって大切な年とされている。

小学校教育

子どもが5歳になると、**Prep** と呼ばれ小学校に入学し、6歳（1年生：**Grade 1**）から、11歳（6年生：**Grade 6**）までの7年間、小学校教育を受ける。教えられる科目は英語、算数、**Integrated Studies** と呼ばれる総合科目（健康栄養学、社会環境学、テクノロジー）、体育、美術、演劇、音楽、**LOTE**（外国語）などである。学校により、提供している外国語が異なっている。また、外国語を **Prep** 生から導入するかどうかも学校により異なっている。

中等教育

小学校卒業後、**Secondary School** または **High School** と呼ばれる中学、高校に入学する。中学1年生を7年生（**Year 7**）と呼び、8年生（**Year 8**）、9年生（**Year 9**）、10年生（**Year 10**）と義務教育が続く。その後の11年生（**Year 11**）、12年生（**Year 12**）は選択できる教育期間となっている。この2年間は **VCE**（**The Victorian Certificate of Education**）である。7年生、8年生を **Junior School** と呼び、9年生、10年生を **Middle School**、**VCE** の11年生、12年生を **Senior School** と呼んでいる。各学年に学年主任、副主任がいるほか、科目別の主任もいる。7年生が学習する教科は英語、数学、科学、情報技術、歴史、地理、音楽、保健、体育、美術、演劇、**LOTE**（外国語）であり、8年生の教科には健康学、被服、木工鉄工、家庭科が加わる。**Middle School** では英語、数学、科学が必修で、他の科目は生徒が選択できる。**VCE** 11年生では約36の教科が提供されており、12年生では34の教科の中から選ぶことができる。また、**VCE** では職業訓練としての科目、ホスピタリティや自動車関係、建築学、工学、サービス業、スポーツ・リクリエーションなども、学校外の **TAFE** 校などで選択できるようになっている。

フランクストン・ハイスクールの時間割は10日ごとの時間割になっているが、時間割は学校によって異なっている。7年生から10年生までは9時に1時間目が始まり、3時15分に6時間目が終了する。**VCE** では8時10分に0時間目が始まり、5時間目が2時20分に終了する。オーストラリアの学校では1時間ごとに休み時間はなく、1・2時間目が終了した後に **Recess** と呼ばれる中休みが30分ほどある。この時間に生徒はモーニングティーのためのおやつ（スナック）を教室の外で食べる。3・4時間目終了後、ランチタイムのお昼休みとなる。約45分間あるが、生徒は教室の中で食べることはできない。

各年度は1月末に始まる。2006年は2月1日から1学期が始まり、3月10日で終了した。各学期は10週間になっているが、今年はメルボルンで3月15日から26日まで **Commonwealth Game** が開催されていたため、1学期が短く、2・3・4学期が11・12週となっている。2学期は3月27日から6月16日まで、3学期は7月3日から9月15日まで、4学期は10月2日から12月21日までとなっている。秋休み、冬休み、春休みは各2週間あり、1年終了の夏休みは5週間となっている。成績は1学期、2学期のセメスター1と3学期、4学期のセメスター2の2回報告される。

放課後の活動についても、学校によって異なっている。フランクストン・ハイスクールで放課後に行われるクラブ活動は、図書館で行われるホームワーク・クラブの他、エアロビクスと音楽バンドだけである。これらはすべて4時30分には終了し、遅くとも5時には学校が閉まる。日本のようなクラブ活動はなく、生徒たちはその地域が提供しているクラブに個々人で参加している。曜日ごとに違うスポーツをしている生徒もいる。人気のあるスポーツとして、オーストラリアン・ルールフットボール、サッカー、クリケット、水泳、ゴルフ、空手などがあり、女の子にはバレーやネットボールなども人気がある。

日本の塾や予備校にあたる学校外学習のための学校は少なく、どちらかという、生徒たちには家庭教師がついている。

ヴィクトリア州の大学

- ① 最も古い大学 メルボルン大学 (1855年開校)
- ② 最も大きい規模の大学 モナッシュ大学 (学生数 56,000人)
- ③ ヴィクトリア工科大学
- ④ バララット大学
- ⑤ ディーカン大学
- ⑥ ラトロープ大学
- ⑦ RMIT 大学 (ロイヤル・メルボルン工科大学)
- ⑧ オーストラリア・カトリック大学

2004年の統計によると、241,755人の学生がヴィクトリア州の大学で学んでいる。2003年に比べて2%増となっている。全大学で学生数の30%が海外からの留学生で占められている。

特殊技術専門学校(TAFE)

ヴィクトリア州には、19の特殊技術関係の専門学校(TAFE校: Institute of Technical And Further Education)が存在する。1,000以上の成人対象の教育組織が、このTAFEに登録しており、承認されたTAFEコースを提供している。

日本語教育

中等教育で紹介している外国語には、日本語を含め、中国語、フランス語、イタリア語、ロシア語、ドイツ語、インドネシア語など、全部で 41 言語もある。この外国語を教える教科を **LOTE (Languages other than English)** という。中学 1 年生にあたる 7 年生の年に選択しなければならない学校と 1 年間で 2 言語を必修科目として (1 セメスターに 1 言語) 学び、8 年生になった段階で 1 つの言語を選択する学校の 2 通りあるが、学校によっては 3 言語紹介しているところもある。フランクストン・ハイスクールでは 2 言語 (日本語、フランス語) を提供しており、7 年生になると 1 つの言語を選択し、9 年生までその言語を必修科目としている。学校によっては高校 1 年生にあたる 10 年生まで必修科目としているところもある。

フランクストン・ハイスクールでの **LOTE** 学習時間は、7・8 年生の 2 年間は週 3 時間、9・10 年生の 2 年間は週 4 時間、義務教育ではない **VCE** の 11・12 年生の 2 年間は週 5 時間となっている。また同様に、公立、私立の各学校によって **LOTE** にあてられる時間配分が異なる。

VCAA (Victorian Curriculum and Assessment Authority) が出すカリキュラム・スタンダードに沿って日本語教育も導入されている。2007 年からは **VELS (Victorian Essential Learning Standard)** というカリキュラム・スタンダードを使うことになっているが、それまでは **CSF 2 (Curriculum Standard Framework 2)** というものであった。**VCE** でも **VCAA** が出す **Study Design** を基本に指導しなければならない。

VCE11 年生、12 年生の日本語教育

11 年生の 1 年間は **Unit 1** と **Unit 2** に分けられる。ヴィクトリア州では 4 学期制 (2 セメスター制) であり、1・2 学期 (1 セメスター) で **Unit 1** を終了、3・4 学期 (2 セメスター) で **Unit 2** を終了する。12 年生も同様、1・2 学期 (1 セメスター) で **Unit 3** を、3・4 学期 (2 セメスター) で **Unit 4** を終了する。大学進学に大切な **Study Score** が **Unit 3・4** の学校での成績及び 10 月に行われる口頭試験 (**Oral Examination**)、11 月に行われる筆記試験 (**Written Examination**) から取得できる。

12 年生の日本語コースには **School Assessment Tasks** と呼ばれる試験が 1 セメスターに 3 回あり、**Unit 3** では筆記試験 (**Writing**)、口頭試験 (**Oral**) および聴解試験 (**Listening**) の 3 回、**Unit 4** においては、読解試験 (**Reading**)、口頭試験 (**Oral**)、および筆記試験 (**Writing**) の 3 回がある。合計 6 回の学校内試験となるが、**Unit 3** の試験 (50 点) と **Unit 4** の試験 (50 点) との合計で 100 点としている。

学校外での **VCAA** による口頭試験は、一人 15 分の面接で 2 人の試験官によって 10 月頃行われる。最後に **VCAA** による筆記試験には聴解、読解、作文が含まれている。試験は 2 時間 15 分の試験で 11 月頃行われる。この試験結果と学校内での成績に基づいて **Study Score** という日本語の成績がつけられる。各教科の **Study Score** の総合点により **Enter Score** という進学先を決定するスコアが取得できる。

日本語教材 (2006 年現在) Frankston High School

	学 年	教 科 書	副 教 材
Junior School	7 年 生	Hai ! 1 & 2	Workbook Hai ! 1 & 2 Laptop Computer
	8 年 生	Hai ! 3 & 4	Workbook Hai ! 3 & 4 Laptop Computer
Middle School	特別 9 年 生 一般 9 年 生	Hai ! 5 & 6 Isshoni	Workbook Hai ! 5 & 6
	特別 10 年 生 一般 10 年 生	Hai ! Ima !	Workbook Hai ! Ima ! 高校生活漢字の本
Senior School VCE	VCE 11 年 生 VCE 12 年 生	高校生活 Book11 高校生活 Book 12	高校生活漢字の本 高校生活漢字の本

Laptop Program (ラップトップ・プログラム)

フランクストン・ハイスクールではラップトップ・コンピューターを使う授業も多く、クラスがラップトップクラスになっているクラスもある。この 2006 年から「タブレット」という新しいタイプのラップトップを導入するようになり、生徒はスクリーンを 180 度回転させ、キーボード上にその画面を置いてコンピューターのペンで字を書くことができる。ラップトップの中にワークブックが入っているので、生徒はひらがなの練習や読解、聴解などの問題にもコンピューターの画面上で回答していく。宿題や課題も Email でクラスの生徒全員に送ることができるのでとても便利になってきている。またインターネットで日本語を学べるウェブサイトも多くあり、ひらがなクイズや季節の行事などの文化紹介についても、一人ひとりの学生が自分のペースで学習できる。ワークシートもコピーをとる必要がなく、それをスキャンし、PDF ファイルや Jpeg ファイルなどで添付し、メールで送ることができる。生徒はそのメールを開け、保存した後、OneNote というプログラムに貼り付け、大きさを調節して学習を始める。色を使う場合は InkArt というプログラムに貼り付けると、色を覚えながら、色塗りを楽しめる。生徒は色鉛筆など持ってくる必要がないので、スムーズに授業が進む。これからさらにコンピューターを使用する副教材が必要になってくると思う。

VCE11 年生、12 年生の日本語コース (2005 年)

以下に 11 年生、12 年生の 1 年間の日本語コースの内容を紹介する。1 年の始まりに、この VCE ハンドブックを生徒に渡し、いつ試験があるのか、内容は教科書のどこからかなどが分かるようになっている。これはフランクストン・ハイスクールのハンドブックで私自身が作成したものである。来年 2007 年のハンドブックはこれを元に作成する予定である。

生徒に配布するハンドブックには原稿用紙の使い方、助詞の使い方、作文の書き方などの情報も添付している。

12 年生の日本語では、15 分間の学校外での口頭試験があるため、毎年、ボランティアのアシ

スタントの先生にお願いし、週に1回 **Tutorial** という日本語会話レッスンを生徒の空き時間に1対1でもてるようにしている。その時間には生徒の日常生活について日本語で話し、3学期に行われる特別研究の内容（日本文化について）も日本語で説明できるように指導していかなければならない。学期ごとに試験もあるので、その試験で出題される内容もこの **Tutorial** のクラスで練習するようになっている。文法や漢字を指導することは授業中に簡単にできるが、会話指導にあたっては一人ひとりの生徒と1対1が望ましく、担任の先生がその時間を担当することはむずかしい。フルタイムの先生が持つ時間数は1週間に23時間で、毎日4・5時間授業を担当しながら、空き時間に生徒との会話練習を入れると、下準備や採点などの時間が不足し、体力的にも疲れてしまうことが多い。また、7年生から12年生まで4クラス以上の学年が異なる教科を教えることになるので、準備に時間がかかる。日本と異なる点は、この1週間に与えられる時間数及び異なる学年を掛け持つ縦割りのシステムにあると思う。

YEAR 11 JAPANESE

UNIT 1

Summary of assessment tasks.

	<u>Outcome 1</u>	<u>Outcome 2</u>	<u>Outcome 3</u>
Unit 1	Establish and maintain a spoken or written exchange related to personal areas of Experience	Listen to spoken texts to obtain information to complete notes, charts or tables and Read written texts to obtain Information to complete notes, Charts and tables.	Produce a personal response to a text focusing on real or imaginary experience
	One activity	Two activities	One activity

UNIT 2

Summary of assessment tasks.

	<u>Outcome 1</u>	<u>Outcome 2</u>	<u>Outcome 3</u>
Unit 2	Participate in a spoken or Written exchange related to making arrangements and completing transactions	Listen to spoken texts and reorganise information and ideas in a different text type and Read and reorganise information And ideas in a different text type	Give expression to real or imaginary experience in written or spoken form
	One activity	Two activities	One activity

Topics covered in Units 1 & 2 may include: Personal world, Daily life, Past and future, Visiting Japan, Life in Japan, Getting to know people in Japan, The world of work, Changing in daily life, Home and neighbourhood.

YEAR 12 JAPANESE

UNIT 3

Summary of assessment tasks.

	<u>Outcome 1</u>	<u>Outcome 2</u>	<u>Outcome 3</u>
Unit 3 (3 activities)	Express ideas through the production of original texts (500 ji)	Analyse and use information from spoken texts (A response to specific questions)	Exchange information, opinions and experiences (3 to 4 minute role-play)
	One activity	One activity	One activity

UNIT 4

Summary of assessment tasks.

	<u>Outcome 1</u>	<u>Outcome 2</u>
Unit 4 (3 activities)	Analyse and use information from written texts (A response to specific questions)	Respond critically to spoken and written texts which reflect aspects of Japanese and culture of Japanese speaking communities (A 600 ji informative, persuasive or evaluative written response) and (A 3 to 4 minute interview on an issue)
	One activity	Two activities

Topics covered in Units 3 & 4 may include: Personal world, Daily life, Past and future, Visiting Japan, Life in Japan, Getting to know people in Japan, The world of work, Changing in daily life, Home and neighbourhood.

It must be remembered that there are a number of tertiary courses and institutions offering bonus entry points for students who have STUDIED LOTE Units 3 & 4. A list of these courses and institutions should be available from the careers library. Students will be monitored and advised throughout the year.

YEAR 1 1 VCE JAPANESE UNIT 1 (2005)

OUTCOMES 1 & 2 & 3	ASSESSMENT TASKS (4 TASKS)	DATE	LINGUISTIC ELEMENTS
TERM I			
*THEME: The individual / The change world			
WEEK 5			
OUTCOME 2 Personal World 10 marks	Listen to spoken texts to obtain specified information to complete notes, charts and tables. (Response in English) (高校生活 I p.1~11)	24/2 (Mon)	Topic: My town, my house & my room *Location *Direction *Transport method
WEEK 10			
OUTCOME 1 Personal World 20 marks	Informal conversation: Establish and maintain a spoken exchange related to personal areas of experience. (高校生活 I p.12~25)	31/3 (Mon)	Topic: Introducing my family/Typical Japanese family life *Describing family *Counting people *Telling time & dates
TERM II			
WEEK 3			
OUTCOME 2 Daily Life 10 marks WEEK 6	Read written texts to obtain information to complete notes, charts and tables. (Response in Japanese) (高校生活 I p.124~146)	12/5 (Mon)	Topic: Japanese school & Australian school *てformもいいです。 *てformはいけません。 *verb plain present negative form *なければなりません。 *なくてはいいけません。 *なくてもいいです。
OUTCOME 3 The world of Work 20 marks	Produce a personal response to a text focusing on real or imaginary experience. (高校生活 I p.147~164)	2/6 (Mon)	Topic: Career/Part-time job *pl.verbことが好きです *pl.verbことがきらいです。 *Comparison *because から・ので *verb stem/adj.stem そうです。

YEAR 1 1 VCE JAPANESE UNIT 2 (2005)

OUTCOMES 1 & 2 & 3	ASSESSMENT TASKS (4 TASKS)	DATE	LINGUISTIC ELEMENTS
TERM III			
WEEK 4			
OUTCOME 2 Life in Japan <i>10 marks</i>	Read and recognize information and ideas in a different text type. (Response in English) (高校生活 I p.26~48)	4/8 (Mon)	Topic: Japanese festivals and events. *Joining Adjectives *~たり~たりします。 *~がすき・きらいです。 *~が下手・上手です。 *~ができます。
WEEK 7			
OUTCOME 3 Life in Japan <i>20 marks</i>	Restaurant Review: Give expression to real or imaginary experience in spoken form. (高校生活 I p.49~68)	25/8 (Mon)	Topic: Typical Japanese Diet / food *pl.verbことができます。 *~ことが上手です。 *~ことがすきです。 *~ために~ *pl.past verbことがあります・ありません。
WEEK 9			
OUTCOME 2 Visiting Japan <i>10 marks</i>	Listen to spoken texts and recognize information and ideas in a different text type. (Response in Japanese) (高校生活 I p. 69~84)	8/9 (Mon)	Topic: Seasons in Japan/Seasonal Events *to become/get なります *pl.verb と (if/when *verb stemながら *~がきこえます。 *~がみえます。
TERM IV			
WEEK 6			
OUTCOME 1 Visiting Japan <i>20 marks</i>	Role Play: Participate in an oral exchange related to making arrangements and completing transactions. (高校生活 I p.85~102)	10/11 (Mon)	Topic: Travelling to Japan *かかります。 (take time/cost money) *pl.verb と言います。 *pl.verb といいます。 *pl.verb ことにします・ことにきめます。 *て form みます。

YEAR 1 2 VCE JAPANESE UNIT 3 (2005)

(*School-assessed coursework for Unit 3 contributes 25% to the final assessment.)

OUTCOMES 1 & 2 & 3	ASSESSMENT TASKS (3 TASKS)	DATE	LINGUISTIC ELEMENTS
TERM 1			
*THEMES: The individual/Japanese-speaking community			
WEEK 4 (Term 1 : 29 of January to 11 of April)			
OUTCOME 1	Express ideas through the production of original texts. (500 ji) Daily life <i>20 marks</i>	25/2 (Tues) 26/2 (Wed)	<u>Topic: Japanese sports</u> *According to~ ~よると~そうです。 *Direct/Indirect quotation *Verb/Adj.stemそうです。
WEEK 6	Visiting Japan (高校生活 II p.12~26)		<u>Topic:Japanese seasons and weather</u> *Conditional ば・ら *Probably でしょう。 *might かもしれません
WEEK 9			
OUTCOME 3	Exchange information, opinions and experiences: A three to four minute role-play, focusing on the resolution of an issue. Life in Japan (高校生活 II p.27~59) <i>20 marks</i>	1/4 (Tues) 2/4 (Wed)	<u>Topic:Leisure activities in Japan.</u> *Conjunctions *Particle use でも *even if/thoughても・ *だけ・しか~ません(only) *pl.verb こと・の *potential forms
TERM 2			
WEEK 5	(Term 2 : 28 of April to 27 of June)		
OUTCOME 2	Analyze and use information from spoken texts. (A response to specific questions.) Daily Life (40-50 minutes) *4-5 minutes tape (three times) ... a pause of b/w 5 minutes. (高校生活 II p.60~81) <i>10 marks</i>	27/5 (Tues) 28/5 (Wed)	<u>Topic: Student Life in Japan and Australia..</u> *てから(after doing) *まえに(before) *あとで(after) *けれども・が (although /however) *なぜ・どうしてWhy? *からです(It's because) *たがる(is eager to)
WEEK 8	GAT WEEK 10/6~13/6		
OUTCOME 1	WEEK 9 *See the next page (Unit 4)	24,25/6 (T/W)	

YEAR 1 2 VCE JAPANESE UNIT 4 (2005)

(*School-assessed coursework for Unit 4 contributes 25% to the final assessment.)

OUTCOMES 1&2	ASSESSMENT TASKS(3 TASKS)/ DETAILED STUDY	DATE	LINGUISTIC ELEMENTS
TERM III			
*THEMES: Japanese-speaking community/The changing world			
WEEK 9 (End of Semester 1)			
OUTCOME 1 Changes in daily life 10 marks	Analyse and use information from written texts(1200ji-1500ji): (A response to specific questions.) (500ji) (80-100 minutes) (高校生活Ⅱ p.128~140) *Dictionary to be used.	24/6 (Tues) 25/6 (Wed)	Topic: Technology progress and students' life *Whileながら *のに(even though) *transitive/intransitive verbs
WEEK 1-5	(Term 3 : 14 of July to 19 of Sep.)		
Detailed study	Theme: <i>The Japanese-speaking communities</i> Topic: <i>Visiting in Japan</i>		
OUTCOME 2 (Part A) Visiting Japan 20 marks	Respond critically to spoken and written texts which reflect aspects of Japanese and culture of Japanese speaking communities. (A 600ji informative, persuasive or evaluative written response.) (80-100 minutes) (高校生活Ⅱ p.83~101)	12/8 (Tues) 13/8 (Wed)	Topic: Japanese restaurants and Japanese people's diet *Indirect questions *volitional forms
WEEK 6			
OUTCOME 2 (Part B) 2 Visiting Japan 20 marks	Respond critically to spoken and written texts which reflect aspects of Japanese and culture of Japanese speaking communities. (A 3 to 4 minute-interview on an issue related to the texts studied.) (高校生活Ⅱ p.102~127)	9月9日 (Tues) 10月9日 (Wed)	Topic: A trip to Japan/ Living in Japan. *Use of verb stem *Making nouns from adjectives *~し(and) *Comparison *て form もらう・くれる・あげる
	Sub-topics: Japanese diet/etiquette <i>Housing in Japan</i> <i>Tourist attractions</i> <i>School system in Japan</i> <i>Living in home-stay</i> <i>Leisure activities in Japan</i> **Kanji Test every week on Tuesday (JA3B) and on Wednesday(JA3A).		

TERM IV			
WEEK 1-3	Term 4 : 6 of Oct. to 23 of Oct.	%	
ORAL EXAM	<p>Section 1: Conversation(7 minutes) General conversation about the student's personal world. Eg. School, home life and friends, interests and aspirations.</p> <p>Section 2: Discussion(8 minutes) Students will discuss about the sub-topic chosen for detailed study and in no more than one minute, briefly introduce the main focus of their sub-topic.</p>	Early in October	(12.5%)
WRITTEN EXAM	<p>(2 hours 15 minutes reading time)</p> <p>Section 1: Listening and reporting Part A: Response in English Part B: Response in Japanese</p> <p>Section 2: Reading and responding Part A: Response in English Part B: Response in Japanese (250-300 ji)</p> <p>Section 3: Writing(400-450 ji)</p>	18 th of November (Tuesday)	A:10 % B: 5 % A: 10% B: 5% 7.50% (37.5%)
		TOTAL	50%

Professional Recognition Program for Teachers (教員のプロ意識プログラム)

毎年、Professional Recognition Program for Teachers という校長、教頭との面接が行われる。教員それぞれが今年何をしたか、来年の抱負は何かといったことを話さなければならない。そのガイドラインには現在のカリキュラムを理解しているかどうか、クラス指導ではレベルの違った生徒をどのように教えているか、全ての生徒が目的を達成するようにどう指導していくか、成績処理をするにあたって何を基準にしているかなどが含まれている。その他、地域社会の一員として、どのように貢献しているか、教員自身が資質・能力を向上するため、どのような努力をしているかなども含まれている。このプログラムで次年度の給与所得が上がるかどうかも決まってくるので、教員自身が毎年向上するよう努めている。

最後に

ヴィクトリア州における日本語教育は、現在、人気があるが、最近インドネシア語や中国語、さらにフランス語に押され気味になりつつある。Frankston・ハイスクールでもここ2・3年、フランス語を選択する7年生が多く、今年はフランス語が6クラス、日本語が4クラスになっている。ヴィクトリア州全体でも日本語学習者のピークは過ぎたと言われ、LOTEとして外国語を学ぶよりも、時代に合ったコンピュータ・テクノロジーなどの情報教科に人気が集まっている。これからの日本語学習では、コンピュータを取り入れたビデオ・コンファレンスなど、時代に合った授業を考えていかなければならない。そのためには、教員自身もコンピュータ・スキルを上達させるための色々な Professional Development (略PD)に参加しなければならない。

ヴィクトリア州の教育を私自身の経験を通してまとめてみた。この報告が何かの参考になればと期待している。

参考文献

- *<http://ja.wikipedia.org/wiki/>
- *<http://en.wikipedia.org/wiki/Victoria>
- *<http://www.sofweb.vic.edu.au>
- *<http://www.vcaa.vic.edu.au>
- *Frankston High School Diary 2006 Towerhill Rd Frankston 3199 VIC Australia
- *CSF2 Curriculum Standard Framework 2
- *VELS Victorian Essential Learning Standard
- *VCE Hand Book 2005 by Yuka Mukaiyama
- *Japanese Second Language (VCE Study Design) 2004 published by VCAA.